

自然休養林情報

訪れる人を守る保全・管理

保全センターでは、自然休養林を常に安全で快適に散策していただくため、職員実行により看板の清掃、設置箇所の見直しによる看板の移設と遊歩道の修理等を行っています。

木道の張板・ボルトの緩み等の点検も定期的を実施し、保全・管理に努めています。

また、白谷雲水峡では、原生林歩道約200mの歩道修理と60分コースには、気楽にくつろげる木製ベンチを2箇所設置しました。

各種施設・整備に当たっては、自然景観に配慮し、訪れる皆さんの意見・要望を取り入れながら実施しています。

自然休養林では、ゆたかな水・さわやかな緑・しんせんな空気、ほんとうの自然がある森林とのふれあいを、たっぷりお楽しみ下さい。

今、休養林内では、花の少ない時期にあって、白～淡紅色のきれいなシキミの花がみられます。



縄文スギ樹勢回復措置工工事完了

平成十年年度、世界自然遺産保全緊急対策事業の一つとして実施していた、縄文スギの樹勢回復措置工工事は、三月二十日完了しました。

縄文スギの樹勢回復については、平成九年度に樹木医による事前調査を実施し、その結果縄文スギ周辺土壌の状態が悪く樹勢に影響を与えており、改善のためには周辺植生を回復させ、樹勢の回復を図る必要があるとの報告を受けました。

そこで保全センターでは裸地部分の調査と一部に試験地の設定を決め、昨年十月に本調査（土壌調査・植生調査・裸地部分の正確な測量）を

実施し、縄文スギ樹勢回復に向けて最善の方法を模索してきました。

これらの結果を基に、今回裸地部分に土壌改良・編柵工・排水工等を実施した試験地を設定しました。

この試験地の土壌と植生回復の状態をモニタリングしていくことで、今後の縄文スギ樹勢回復措置工の指標としていきます。

なお、裏面にこれまでの調査結果等についてまとめたものを掲載します。

の掲載します。

「感じてみた」

このほど、「感じてみた」

「屋久島自然休養林ポスター作成」

個人的にご希望の方にも無料で配布しますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

休養林とは、国有林の中でも特に風景が美しく保健休養に適している森林を広く



「屋久サバの森」等で森林教室

三月六日、熊毛支庁屋久島事務所と上屋久町との共催で「屋久サバの森」分収造林地において、一湊中学校一・二年生を対象とした植樹体験学習が行われ、ヤマモモやウバメガシなど約三〇〇本を植栽するとともに、当センター所長が森林教室を行いました。

また、三月一〇日、一湊小学校の学級担任から社会科授業の一環として森林の環境や山で働く人の様子を教える欲しいとの要望があり、五年生



一四名を対象に同校で、紙芝居「森林からの贈り物」上映や業務活動紹介を通して森林の働き等を説明しました。

この他、永田浜で行われたウミガメ保護植樹祭への参加や司法修習生と合同での清掃登山を実施するなど、地元地域や視察研修者に対する啓蒙普及活動を推進しています。

屋久島の植物



アオモジ (くすのき科)

九州以南に分布する暖帯・亜熱帯性植物で落葉高木。枝は緑色で葉の裏は白い。屋久島では日当たりのよい山野に三〜四月にかけて枝もたわわに黄緑の花芽をいつぱいにつける。幹は芳香があるので妻楊枝、樹皮は香料の原料に、花は切り花として利用され実の花と呼ばれている。

お知らせ

苔の橋完成

このほど、ヤクスギランド八〇分コースのつつじ河原の近くにある苔の橋が完成しました。四月二〇日に渡り初め式を行いますので、ぜひご参加下さい。

人の動き

- 三月三十一日付け退職
 - 百田 喜久郎 (専門官)
- ※長い間ご苦勞様でした。
 - 四月一日付け転入
 - 自然遺産保全調整官 井上 正 (林野庁)
 - 専門官 (森林生態系保護担当) 川崎 秀親 (西都児湯署)
 - 四月一日付け転出
 - 宮崎南部署 下崎 哲也 (専門官)
 - 入来町出向 山本 満久 (専門官)
- 当署春牧森林事務所 福泉 裕介 (所員)

縄文スギ樹勢回復措置

平成9年度事前調査

平成9年度の調査では、縄文スギ周辺特に南側斜面の縄文スギから展望デッキの間で、植生の回復がみられないことについて問題点がどこにあるのか本調査のための事前調査と位置づけ、併せて回復のための処置を示すことを目的に行った。

調査区域の状況は、表層土に多量の未分解性の有機物が残りヘドロ状態に変化し、どぶ臭いにおいを発していた、これは過湿状態であると考えられ、この状態で根毛が発生しても数日後に土壤腐朽菌のため養分吸収が阻害され枯死するものと考えられる。

また、埋土層の中に埴土の塊が点々と存在しているようで、細根が生長しても埴土の塊では、透水性や通気性の悪化による酸素不足も懸念される。

予備調査段階での環境改善の方策としては、下記のことが考えられる。

①ヘドロ状態の未分解性有機物の改善と過湿を軽減するための排水対策。

②A0層の十分な確保を図る

平成10年度調査

平成9年度事前調査の結果を基に今回は、縄文杉周辺裸地部の土壤調査・植生調査・詳細な測量を実施した。

なお、縄文杉周辺裸地部分と比較する地域として、植生の荒らされていない夫婦杉周辺でも土壤調査と植生調査を行った。

今回の土壤調査結果をまとめてみると、土性は、縄文杉・夫婦杉ともに砂壤土で（やや不良）と判定されたが、夫婦杉では、細根・ひげ根が多数確認され、根群の伸長では（良）と判定された。

土色では、縄文杉・夫婦杉ともに黒褐色～黒色で（良）と判定されている。

土壤の構造は、縄文杉は一部に団粒状が見られるが、それ以外は粒状で（やや不良）と判定され、夫婦杉は、表層から20cm前後までは団粒状で（良）と判定された。

乾湿では、縄文杉・夫婦杉ともに、湿～半湿で（やや不良）と判定された。

土壤硬度は、縄文杉の埋土層では15mm～27mmと硬いところも見られ、上部の表層部は17mm～25mmで、夫婦杉では14.5mm～18mmと縄文杉に比べ低い値を示した。

EC（電気伝導率）は、縄文杉の土壤検査結果（0.02～0.06ms）から判断すると、全力所とも（養分欠乏）と判定され、夫婦杉では表層部分は0.1ms以上とやや高い値を示し、発芽試験でも縄文杉土壤より生育良好であった。

pH値では、縄文杉pH4.23～5.20、夫婦杉pH3.90～4.56でともに（やや不良）。

その他、CEC（陽イオン交換容量）、リン酸吸収係数、可給体リン酸、硝酸態窒素、塩基飽和等について調査を行ったが、縄文杉の土壤と夫婦杉の土壤では大きな違いは見られなかった。

この結果から見てみると、縄文杉周辺土壤も夫婦杉の土壤と質の面では大差ないことが分かる、違いはA0層が欠乏している事により優良微生物の発育ができないという点であった。

◎土壤調査状況写真



平成10年度試験地設定

この調査結果を受け、今回の試験地では客土したA0層に土壤改良材を混合して酸性土壤を中和させ、そのA0層が流出しないように編柵工を階段状に作り流出を防ぐ対策をとり、また、排水対策としてD0パイプの設置も行った。

以上の工法には、化学肥料のような即効性はないが、土壤中にいる土壤生物（ミミズ、昆虫）、および微生物等を利用し、永続的に縄文杉へ養分・ミネラル等の吸収を行わせ、これに植生が回復すればA0層の流出を防ぎ落葉によってさらにA0層が活性されていくものと考えられる。

◎試験地設定状況写真

